

一緒にやればつながってくる

校長 高田 晶子

若葉が目によしく風のささやきが心地よく感じられる陽気になりました。屋外では生徒たちが心地よく過ごしている姿に微笑ましさを感じます。

5月1日は元郷中学校76回目の開校記念日でした。地域の皆様も母校を思い出し懐かしんでいただけたら幸いです。



さて、先日、NHKのプロフェッショナルの番組で 刀鍛冶 吉原義人氏の紹介がありました。御年78歳、現在も現役で刀を打ち続けています。弟子を育てながら仕事をされているということで、幾人かのお弟子さんとの関わりの様子も映し出されていました。

その中で、「一緒にやればそれでいい」という吉原氏の思いがテロップで流れました。弟子に対しても一言一言指導するのではなく、一緒にやることで「存在を見せる」のだというのです。その姿から学び、見て学ぶということを大切にしているのだと感じました。

ふと、日々の生活が頭に浮かびました。子供は、毎日、未経験の新しい世界を体験しています。「今日はね、こんなことがね・・・。」という日々の連続です。お話上手なお子さんと、多忙な親御さんの間では、大変ご苦労されているのではないのでしょうか。ただ、子供たちは、見たこと、学んだことを確認したくて、話したくて仕方がないのです。微笑ましいものですね。

子供たちは、大人というものを憧れの目で、尊敬の目でじっと見つめています。大人を頼りにしています。それは、経験を積んでいる大人の振る舞いが手本になるからです。見る、見られるのバランスは、上手にとれば両者がともに伸びていくことができるのだと思います。大人だから子供だからという線を引くのではなく、一人の人間として、見て学ぶ、見られて学ぶということです。見られるからにはきちんとしなくては、と考えるのが自然でしょうか。取り組む姿で表していけるようなつながりを大事にしなければいけないなと思いました。

そのようなことから、「一緒にやればつながってくる」のだと。

相手に伝えるときには、言葉にしないと伝わらないとか、合理的に片付けるには、一人一人でやってしましましょう、と言われる昨今ではありますが、形にならなくても大切なものがあるのではないかと考えるようになりました。一緒にやることによってつながることの本当のつながりというものを探りながら、また、そのつながりを大切にしながら、子供たちとの日々を関わっていきたいと思います。